

岐阜県民の皆様へ

清流の国ぎふ防災・減災センターの村岡治道と申します。

8月8日夜に気象庁が「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表し、行政機関やマスメディアは地震への備えの再確認を呼びかけています。

そこで、確認手順の一例を以下に紹介します。

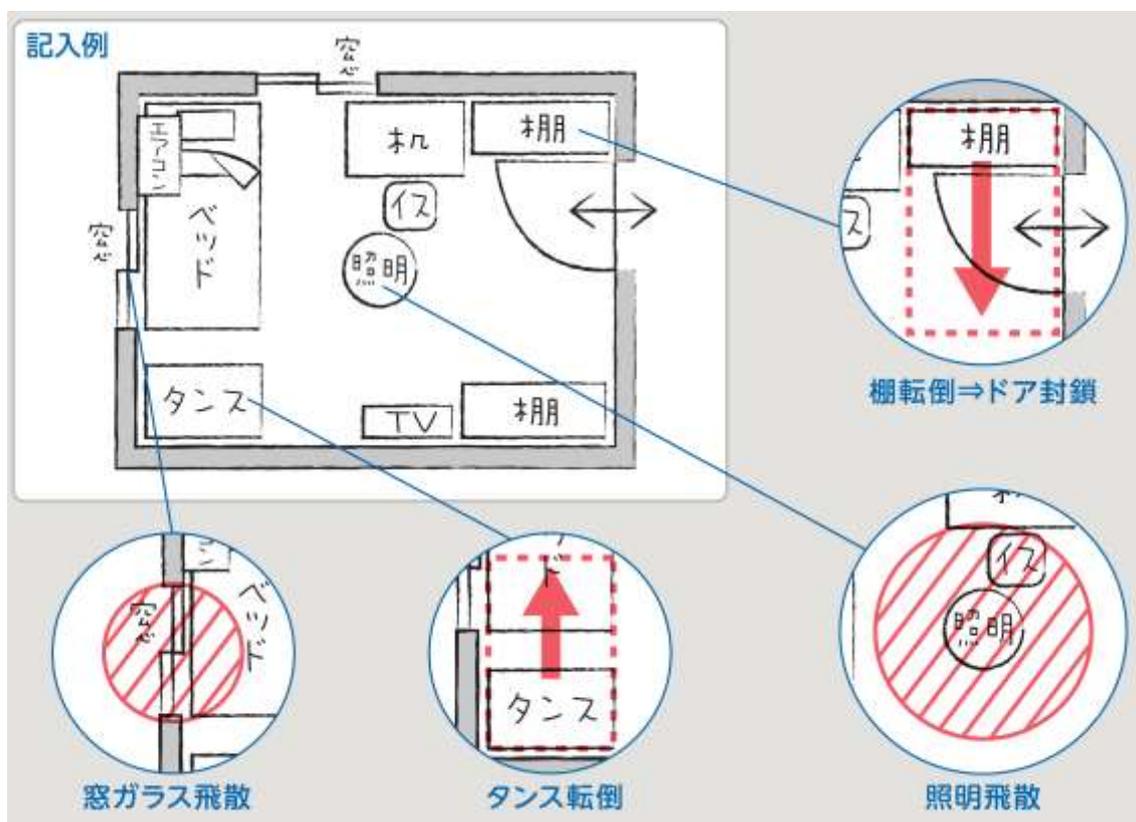
第一ステップ：室内の危険チェックをしましょう

地震の揺れにより、家具、照明器具、家電製品は転倒、移動します。ガラスの破片が飛散し、壁掛け時計、天井つり下げ型エアコンは落下します。車輪がついている家具等は車輪固定器具の有無にかかわらず、縦横無尽に移動する可能性があります。

自宅、実家、職場では、これらの危険現象とその発生範囲のチェックを行いましょう。

チェックでは、下図を参考にして、チェックする部屋の見取り図を下書きして色ペンでチェックする方法（静岡県が推奨する“家庭内DIG”）や、対象の部屋で危険範囲に新聞紙や広告を実際に広げる方法（現地確認の一種）があります。

これにより、危険範囲と安全そうな場所を区別することができます。



第二ステップ：居場所、寝場所、避難ルート、備蓄品保管場所を安全な状態に改善しましょう

長い時間を過ごす場所や寝床、廊下や玄関などの屋内の避難ルート、備蓄品の保管場所など、地震対策上の重要地点が『危険範囲』と重なっていませんか？

このような場合、

- 長い時間を過ごす場所や寝床で怪我をする可能性があります
- 廊下や玄関などの屋内の避難ルートが使えず、室内に閉じ込められる可能性があります
- 備蓄品が下敷きになったりして、使えなくなる可能性があります

対策としては

- 居場所、寝場所、備蓄品保管場所などは場所を変えることができますので、安全そうな場所（別の部屋や別の建物でもOK）に移動してください
- 原因となる危険物を「取り外す」、「固定する」、「他の部屋や屋外へ移動する」ことを実施ください。

対策実施には、技術、人手が必要となる場合があります。「災害が起こる前の“事前の共助”」として、親族、近隣住民、同僚や仲間と協力して、先送りすることなく行いましょう。

第三ステップ：家具固定は、正しい方法と失敗パターンを理解してから行いましょう

家具固定には、多くの失敗パターンがあります。残念ながら、日曜大工やDIY愛好家に加えて未熟な専門技術者でさえも失敗していることを、私は県内で数え切れないほど確認しています。

家具の固定を行う際には、取り扱い説明書を理解することは最低限のラインです。

ここで私からの提案です。

これを機に正しい固定方法を学んでください。学ぶには、下記2ビデオのいずれか（もしくは両方）を視聴することを私は岐阜県内で10年以上推奨しています。

推奨ビデオその1

総務省消防庁のビデオライブラリー <https://youtu.be/x00P01VukVk>

推奨ビデオその2

東京消防庁のビデオライブラリー <https://youtu.be/PWz2Gw8Mnm0>

また、東京消防庁はマニュアルも公開しています。

家具固定のマニュアル

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/>

最後に

上記の情報は「直ぐにやって欲しい、最低限の対策」です。

対策による効果を多くの県民が獲得することを願っています。

村岡治道

【村岡治道】

岐阜県内で18万人（延べ人数）、1,700回の防災講演、出前講座、技術指導の実績を持つ博士（工学）、技術士（上下水道部門、建設部門）

（略歴）平成11年大阪大学学院助手／平成12年民間企業技術者／平成25年愛媛大学防災情報研究センター准教授／平成26年岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター特任准教授／平成28年岐阜大学客員准教授／平成29年岐阜大学地域減災研究センター特任准教授／令和6年清流の国ぎふ防災・減災センター（現在に至る）